

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	古賀 玉緒	職名	講師	学位	修士 (医科学) (久留米大学 2009 年)
----	-------	----	----	----	-------------------------

研究分野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	周産期・更年期・教育

研究課題
周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

担当授業科目
【助産別科】 女性の健康支援論・助産診断ケア学Ⅱ (分娩期)・助産診断ケア学Ⅲ (産褥期)・助産学基礎実習：(前期) 助産診断ケア学Ⅵ (健康教育演習)・助産診断ケア学Ⅶ (助産過程演習)：(通年)・助産学研究演習 (通年) 助産学実習Ⅰ・助産学実習Ⅱ・助産管理実習：(後期)
【看護学科】 母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論：(看護学科 3 年前期)、母性看護学実習・母性看護方法論：(看護学科 2 年後期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅱ・Ⅲ 】 助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。模型やDVD教材を使用し形態を立体的に理解しその生理を理解することや体感して身につけられることを意識して演習を組み立てた。また、事前学習をふまえて知識の確認をしたうえで、演習では実践に活用できることを意図し模擬患者を用いてロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。
授業科目名【 助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ 】 主に、産褥期、思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に講義内容を組み立て実施した。なお、健康教育演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。助産過程演習・助産学研究演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。
授業科目名【 助産学実習 (基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理) 】 実習ごとに施設の指導者と効果的な実習にむけた調整を行ったうえで実習に臨んだ。実習中も記録の確認や各個人の学習の進捗状況を把握したうえで臨床指導者と適宜意見交換を行い指導方法の共通理解に務め、個々のレベルをふまえて指導方法を工夫した。
授業科目名【 母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス看護論 】 看護学科 2 年生、3 年生を担当し、周産期における女性 (胎児・新生児を含む) の生理的変化の理解およびウェルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像や模型を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。また、看護過程演習や母性看護技術演習では臨床実習を見据え、実践で活用できるよう個人ワークや技術練習の時間を設け技術の向上に努めた。ウイメンズヘルス看護論においても、少人数を担当し、個々の学生がもつ興味から、テーマや課題を引き出し、文献検索を通して考察が深まるよう指導に取り組んだ。
授業科目名【 母性看護学実習 】 適宜、指導者と相談し、教員間では定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえ効果的な実習指導を

心がけた。また、グループダイナミクスや学生の学習進捗状況を確認し、適宜指導体制を変更するなどの工夫を行った。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本母性衛生学会		2007年4月～現在に至る
日本看護研究学会		2008年4月～現在に至る
福岡県看護協会		2008年4月～現在に至る
日本助産学会		2011年5月～現在に至る
日本看護科学学会		2014年5月～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者 () 内は学外者	交付決定額 (単位:円)

外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む)			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位:円)	備考

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)